

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校名	〈小・65〉 いわき市立上遠野小学校
〈実施日〉	平成28年 7月 6日(水)
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ○2 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()
〈実践内容〉	1はじめに 平成27年度9月に6学年で実施 使用教材「放射線等に関する指導資料」 2 本時のねらい ガンなどの病気になる原因は色々あることを知り、健康的な生活を送るために心がけなければならないことを考え、規則正しい生活を送ろうとする。 3 学習の流れ (1) 1945年8月に広島と長崎へ原子爆弾が落とされ、多くの方々が放射線の影響を受けた事実を知る。 ・図書室の図書や資料映像を見せ、児童に放射線の影響についてとらえさせる。 ・国語の「未来がよりよくあるために」の学習と関連付け、原爆の悲惨さについて考えさせる。 ・広島・長崎の原爆被災者の追跡調査などの積み重ねなどにより、放射線による人体への影響が明らかになっていることを話す。 (2) 身の回りには、どんな放射線があるか調べる。 ・植物、宇宙、地面、食べ物などから放射線が出ていることを知らせる。 ・自然にある放射線や病院のエックス線などによって受ける放射線の量で、健康的な暮らしができなくなることを心配する必要はないことを知らせる。 ・ガンなどの病気を起こす要因は、色々あることを知らせ、それぞれの要因とガンになるリスクについての資料を配布する。 (3) 健康的な生活を送るために、どんなことに心がけるかを決め、ワークシートに記入させ、まとめをする。 ・ワークシートに、健康な生活のために気をつけたいことを書かせる。
〈成果〉	○子どもたちが放射線についての正しい知識を身につけ、根拠のない不安に陥ることがないようにすることができた。 ○健康な生活を送るためにどんなことが必要か考え、実践しようとする態度を身につけることができた。
〈課題〉	●子どもたちに伝えるべきことが多く、45分の授業の中で伝えきれないことがあった。伝えるべき内容を取捨選択し、子どもたちの実態に合わせて事前学習等をし、他教科と関連付けた上で授業ができるよう、教育課程等の工夫が必要であると感じた。

【資料作成上の注意】

- 1 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 2 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。